

2017年度第1回

スポーツツーリズム需要拡大のための官民連携協議会

JR東日本が取り組む 地域活性化施策とスポーツツーリズム

2017.8.31

東日本旅客鉄道株式会社

事業創造本部地域活性化部門 次長

名川 進

1 JR東日本が取り組む地域活性化施策

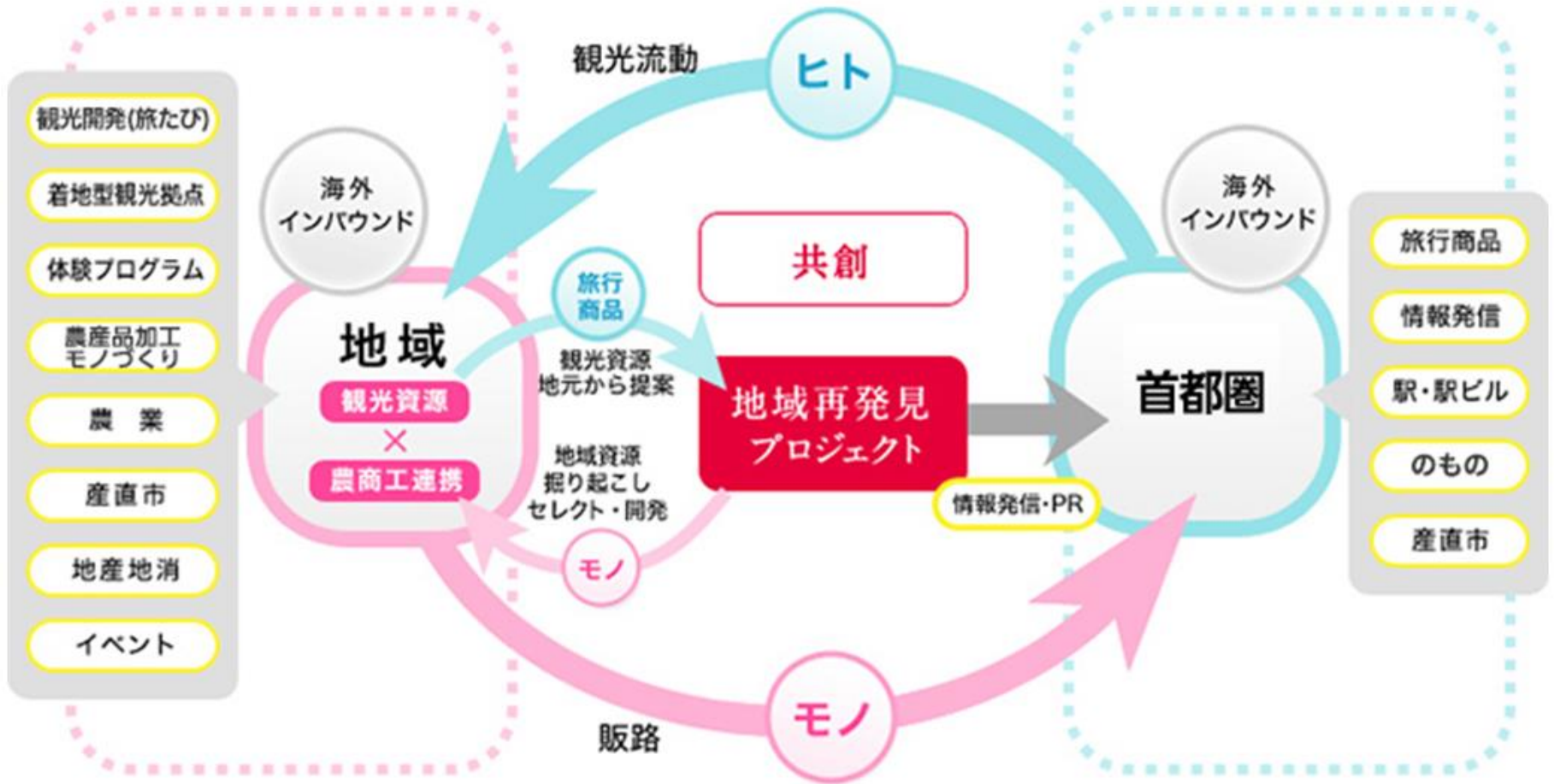
- ・ 地域再発見プロジェクト
- ・ スポーツツーリズムの活用

2 事例紹介

- ・ 千葉エリアでの取り組み
- ・ ペルチ土浦（駅ビル）サイクルステーション
- ・ 秋田駅前『JR秋田ゲートアリーナ（仮称）』

JR東日本が取り組む地域活性化施策

■ 「地域再発見プロジェクト」



地域活性化にむけたスポーツツーリズムの活用

<スポーツツーリズムによる地域活性施策ビジョン>

自然環境を活かした官民協働による
魅力ある観光コンテンツの創造と継続性のある地域づくり

目指すべきもの

観光分野のフィールド拡大

- 観光資源の見直しと新たな観光需要の掘り起しによる交流の創出
- 地域活性化に向けた「コトづくり」の推進
- 食文化など他の魅力的なコンテンツとの複合型魅力づけ

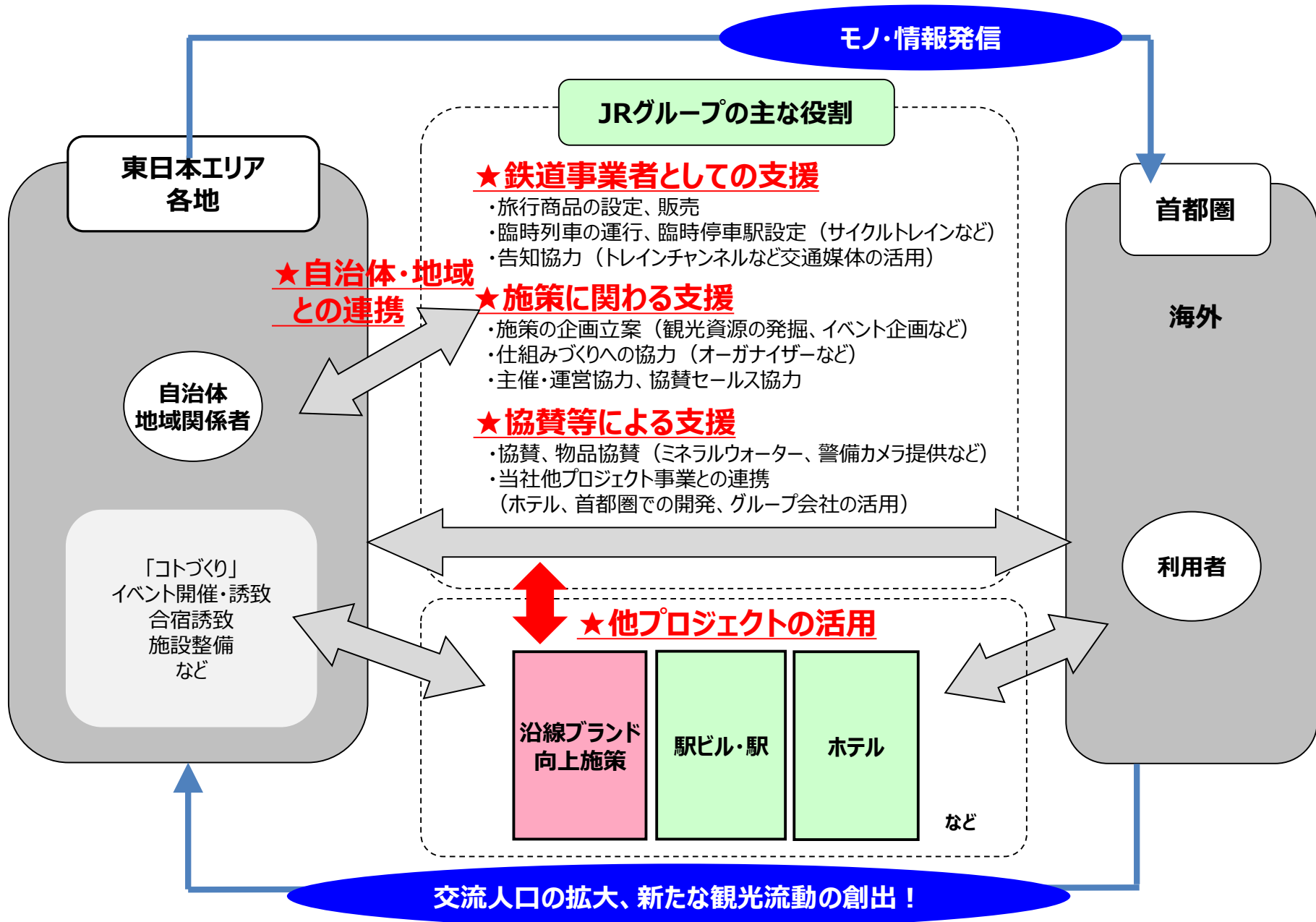
地域ブランド力向上

- 地域の魅力発信による継続的な観光流動の促進
- 「住みたいまち」としての更なる価値向上

地域との連携強化

- 行政、各自治体、地域関係者、企業間での連携強化

地域活性化施策の取り組みイメージ



事例紹介

千葉エリアでの取り組み

地域と取り組む地域活性化施策

(これまでの実績など)

【沿線価値向上施策】

- 京葉チーム6
(ジェフ千葉、千葉ロッテ、千葉ジェッツ、千葉ゼルバ、オービックシーガルズ、バルドラール浦安)



【観光】

- 旅行商品 ※県内全域

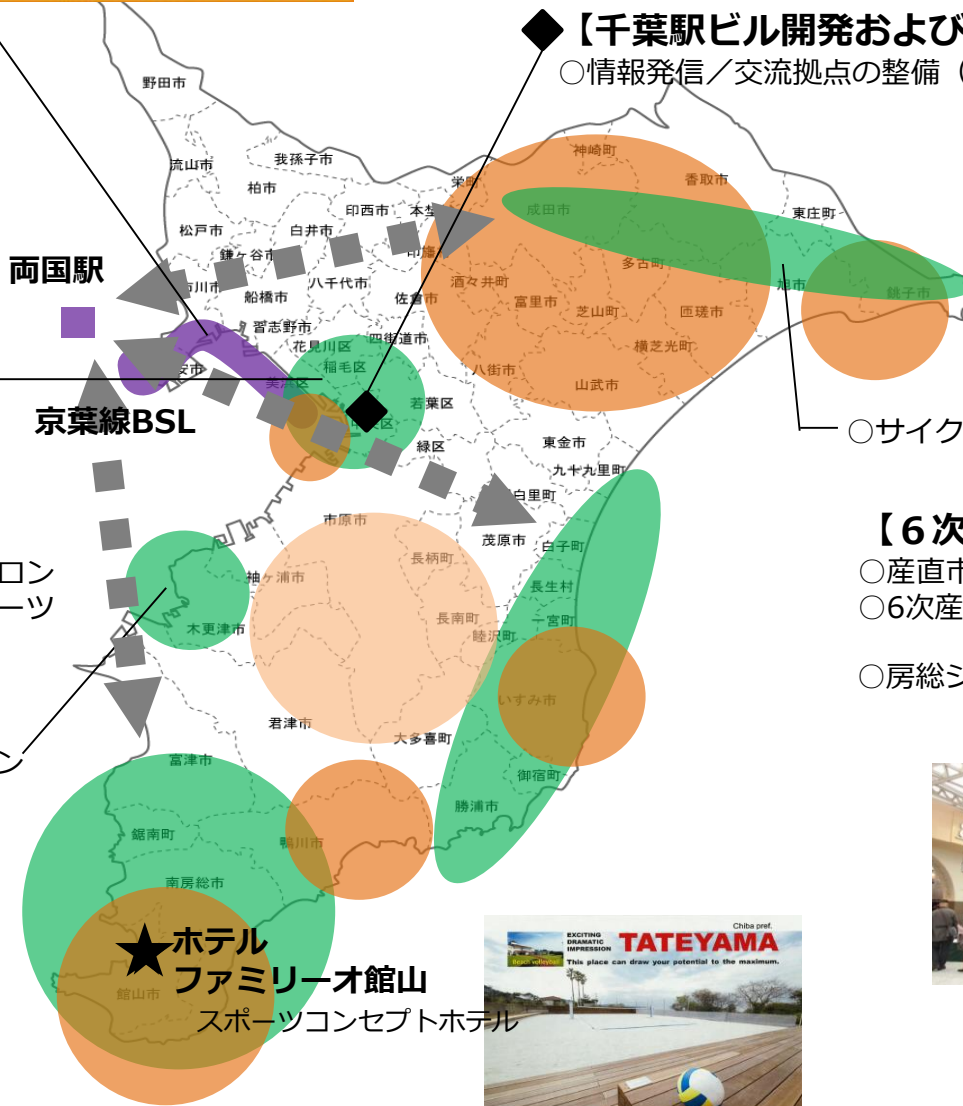


千葉エリアでの「コトづくり」

千葉のポテンシャルと魅力あるコンテンツの融合で 地域の活性化を推進

【千葉駅ビル開発および千葉駅周辺開発】

- 情報発信/交流拠点の整備 (予定)



【スポーツ観光】

- マラソン
- サイクリング
- トライアスロン
- ビーチマリンスポーツ



○サイクリング& サイクルトレイン



- マラソン
- トライアスロン
- ビーチスポーツ

- マラソン
- トライアスロン

- サイクリング

【6次産業化・のもの】

- 産直市・のもの
- 6次産業化
- 房総ジビエ



ステーションライドin南房総

サイクルトレイン

★ホテル
ファミリーオ館山
スポーツコンセプトホテル



主な取り組み事例：サイクリング・トライアスロン・マラソンイベント、サイクルトレイン、ホテル

● Station Ride in 南房総&サイクルトレイン運行

開催日：10月下旬 参加数：300名（うちサイクルトレイン利用90名）

連携自治体：南房総市、館山市

当社の主な役割：主催、サイクルトレイン運行、トレインチャンネル・車内ポスターでのPR実施、インバウンドの取り込み（台湾）

その他サイクリングイベントへの協力：**グレースアース館山南房総鴨川ライド、ツール・ド・ちば**

特徴：【文化】

●発駅「両国駅」の歴史に触れる

- ・東京から房総方面へ向かうターミナル駅「両国駅」3番線臨時ホームから出発
- ・コース上の観光・文化スポット（城址、神社、灯台など）を巡る

●地元の「食」を堪能！

- ・地域の魅力情報満載「道の駅」がエイドステーション、地元ならではの食を味わう

【観光】

●サイクルトレイン乗車！列車と自転車の旅

- ・列車の旅から自転車の旅を通じて地域の魅力に触れる

【スポーツ】

●大自然満喫サイクリング！

- ・サイクリングを通じて豊かな自然に触れる



● 館山わかしおトライアスロン&サイクルトレイン運行

開催日：6月下旬 参加数：1,000名

連携自治体：館山市

当社の主な役割：協賛、協賛営業、サイクルトレイン（バス）運行、トレインチャンネルでのPR実施

その他トライアスロンイベントへの協力：**九十九里トライアスロン、木更津トライアスロン**



■ 館山わかしおトライアスロン告知
(トレインチャンネル)



● ホテルファミリーオ館山

開業：1998年 ※JR直営ホテル

リニューアル開業：2010年

※スポーツ&アクティビティをコンセプトとした

ホテルにリニューアル

客室：31室 定員：94名



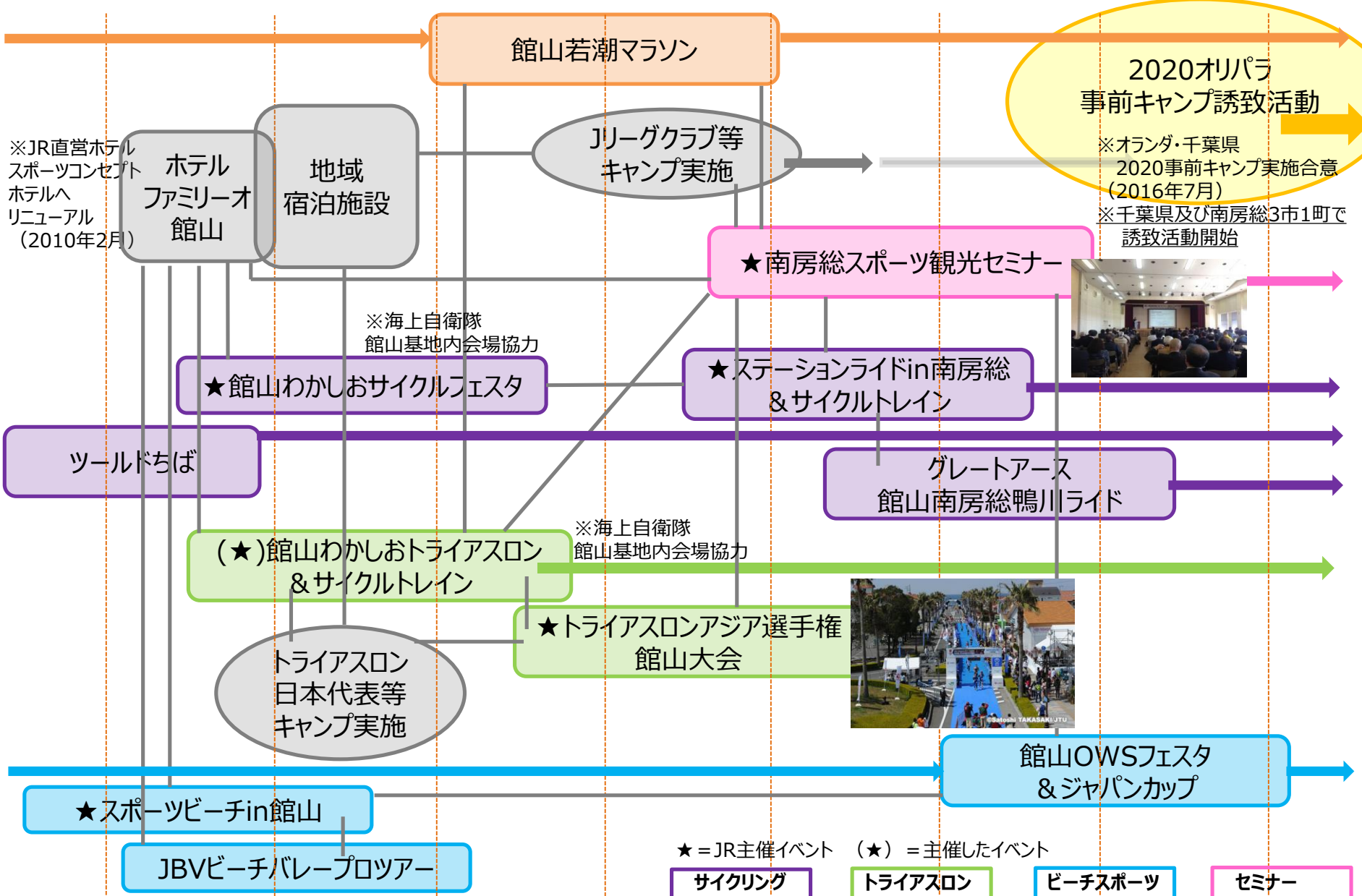
■ ホテル施設



● ちばアクアラインマラソン、いすみ健康マラソン、館山若潮マラソン、X-RUN千葉クロスカントリー、ランランフェスティバルin蘇我

主な取り組み事例：JRが地域と取り組む南房総エリアでのスポーツツーリズム施策 関連図

2009年 2010年 2011年 2012年 2013年 2014年 2015年 2016年 2017年



サイクルトレイン専用列車『B.B.BASE』 2018年1月デビュー

(JR東日本プレスリリース 2017年8月25日)



2017年8月25日
JR東日本千葉支社

房総でのサイクリングをより気軽にお楽しみいただける 新しい列車の概要について

- JR東日本千葉支社では、房総エリアでのサイクリングをより気軽楽しんでいただけるように、自転車を折りたたまずにそのまま乗車いただける新しい列車の運行を計画しております。
- このたび、新しい列車の、愛称名、ロゴ、車両デザインなどの概要が決まりましたのでお知らせします。
- 当社が取り組む房総エリアでの「コトづくり」推進の一環として、都心から近く豊かな自然と温暖な気候に恵まれる「ちば」の強みを生かしたスポーツツーリズムの推進を目指し、これまでも209系電車を利用したサイクルトレインを運行してまいりましたが、より快適にご利用いただきやすい新しい列車を運行することといたしました。この列車の活用を通じて新しいヒトの流れの創出と更なる地域の活性化に取り組んでまいります。

1 列車愛称名

列車愛称名：「BOSO BICYCLE BASE」(房総バイクルベース)

略称：「B.B.BASE」(ビー・ビー・ベース)

コンセプト：房総の各地を、バイクル(自転車)で、駆け巡るためのベース(基地)

房総=BOSO 自転車=BICYCLE 基地=BASE

2 ロゴ

B.B.BASE

BOSO BICYCLE BASE

※商標登録出願中

4 車両概要

車両：既存車両209系の改造(6両編成)

座席数：99席

5 運転開始予定月

2018年1月

6 運転区間

房総エリア

7 発売方法

旅行商品での発売を予定しています。

8 「B.B.BASE」専用ホームページ

URL <http://www.jreast.co.jp/chiba/bbbase/>

3 車両デザイン

コンセプトである「基地」をイメージしたグレーをベースに、ロゴ・番号番号・B.B.BASEオリジナル自転車をアクセントにしたデザイン。

・全体



・外観



<正面>

<側面>

・車内

<1~3号車、5~6号車：座席・サイクルラック>



<4号車：フリースペース>



【房総エリアでの主なサイクルトレイン(これまでの209系改造型電車)運行実績】

・「ステーションライド in 南房総」アクセス ※2013年度より毎年1回運行(2017年10月28日運行予定)

・「九十九里トライアスロン」アクセス ※2014年度より毎年1回運行(2017年9月16日運行予定)

・「木更津トライアスロン」アクセス ※2017年度より初運行(2017年8月27日運行)

・「館山わかしおトライアスロン」アクセス ※2017年度より初運行(2017年6月25日運行)

事例紹介

ペルチ土浦（駅ビル）サイクルステーション

ペルチ土浦（駅ビル）サイクルステーション 2018年春オープン

（JR東日本プレスリリース 2017年2月27日）

2017年2月27日
東日本旅客鉄道株式会社水戸支社
株式会社アトレ

2018年春、駅ビルに全国初の本格的サイクリング拠点をオープンします！

～ ペルチ土浦リニューアル ～

JR東日本グループは、お客さま・地域の皆さまのニーズに対応し、魅力あるサービス・機能を駅に集積することで、「駅を中心とした魅力あるまちづくり」を推進しています。

このたび、茨城県はサイクリングコース「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の整備・利用促進の取組の一環として、茨城県が事業主体となり土浦駅の駅ビル「ペルチ土浦」において2018年春に、サイクリング拠点を整備する計画を進めることとなりました。

これに合わせて、JR東日本水戸支社と駅ビル運営会社であるアトレは、「ペルチ土浦」のリニューアル工事に着手します。首都圏からのサイクリストの誘客や、地域の情報発信など、街との連携を深め街の活性化に寄与する「コト消費型の駅ビル」として賑わいの創出を目指すとともに、地域の皆さまに新しい価値をご提供します。

1. サイクリング拠点について

開業時期：2018年春

事業主体：茨城県

所在地：茨城県土浦市有明町1-30ペルチ土浦 B1F・1F

整備面積：B1F/約380㎡(約115坪)、1F/約580㎡(約175坪)
合計/約960㎡(約290坪)

整備内容：自転車販売・レンタサイクル、情報発信コーナー、修理・組立スペース、シャワー付き更衣室、レンタサイクル保管スペース、コインロッカー等

2. 駅ビル「ペルチ土浦」リニューアルについて

ペルチ土浦は、2009年7月の開業から7年を迎えました。この間、中心市街地を取り巻く環境が大きく変化し、駅周辺のマーケット状況も厳しさを増しています。そこで、周辺自治体で進めるサイクリングコース「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の整備・利用促進の取組と連動し、サイクリング拠点整備を軸に、地域価値の創造と賑わい、交流人口の増加に資する、筑波・土浦・霞ヶ浦エリアの観光拠点化を目指した、駅ビルリニューアル計画を進めることとなりました。

新しいコンセプト・ターゲットのもと、サイクリングを中心としたアクティブなライフスタイルの提案によって「コト消費」を生み出す、単にモノを売ることに留まらない新たな駅ビル像の構築を目指しています。

2018年春には第一期リニューアルとして、サイクリング拠点の開業にあわせて、B1F・1Fにサイクリストサポートショップ、お客様用駐輪場のオープンを予定しています。

2018年秋以降には第二期リニューアルとして、2F・3Fに地産地消のレストラン、カフェゾーン等のオープンを計画中です。今後の土浦駅ビルにどうぞご期待ください。

3. 駅ビル「ペルチ土浦」リニューアル概要

コンセプト：サイクリングを中心としたアクティブなライフスタイルの提案

ターゲット：サイクリスト(観光客、ビギナー、上級者)、地域住民

予定業種：サイクリング拠点、サイクリストサポートショップ(コンビニ、ドラッグストア、リラクゼーション)、レストラン、カフェ、お客様用駐輪場等

スケジュール：第一期オープン B1F～1F 2018年春予定

第二期オープン 2F～3F 2018年秋以降予定

※現時点での計画であり、今後変更となる場合がございます

4. 駅ビル「ペルチ土浦」概要(2017年2月現在)

所在地：茨城県土浦市有明町1-30

営業時間：10:00～21:00(不定休) ※一部ショップにより営業時間が異なります。

構造：SRC造、地下1階～地上6階

延床面積：17,385㎡

店舗数：24ショップ

運営会社：株式会社アトレ(本社所在地:東京都渋谷区、代表取締役社長:石司次男)

事例紹介

秋田駅前『JR秋田ゲートアリーナ（仮称）』

秋田駅前『JR秋田ゲートアリーナ（仮称）』 2019年冬オープン （JR東日本プレスリリース 2017年3月16日）



2017年3月16日
JR東日本秋田支社

秋田の玄関口から健康・スポーツ文化を発信する 「JR秋田ゲートアリーナ計画（仮称）」を進めます！

JR秋田支社は、秋田県・秋田市と一体となり、地域と連携して取組む「ノーザンステーションゲート秋田」として、次の20年に向けた秋田の活性化を目指した取組みを進めています。この度、秋田駅東口に、「ノーザンステーションゲート秋田」の新たな顔となる「JR秋田ゲートアリーナ計画（仮称）」を始動します。秋田駅東口は「秋田プラチナタウン研究会」の一環として、健康・スポーツを通じた、3世代が元気に暮らせるプラチナタウンの検討を進めており、2018年春、城東スポーツ整形クリニック（仮称）の開業を予定しています。今回、クリニックに隣接する、バスケットボールを中心とした体育館と子育て支援施設を一体的に整備し、プラチナタウンを推進するとともに、秋田駅周辺全体の秋田版CCRCを形成していきます。

「JR秋田ゲートアリーナ計画（仮称）」は、閉鎖的な空間になりがちな体育館を都市に開かれた形で開放的に整備し、新幹線や沿道を客席と見立てた今までにないアリーナとします。本施設はJR東日本秋田バスケットボール部ベッカーズの活動拠点となり、また、昨年からBリーグに参戦している秋田ノーザンハピネッツと連携し、プロチームの練習拠点としての利用も予定しており、秋田の玄関口からバスケットボールを発信し、気軽に選手たちに会える環境づくりを行います。さらに駅前のアクセスの良さを活かし、スポーツ大会等の開催など地域利用を促進し、県内外の来訪者を増やします。

今後、秋田拠点センターアルヴェや周辺施設と一体となり、第2期秋田市中心市街地活性化基本計画、秋田版CCRC計画と運動しながら、健康・スポーツを通じた玄関口・秋田の活性化につなげていきます。

1 計画概要

- 名称：JR秋田ゲートアリーナ（仮称）
- 計画地：秋田駅東口（現秋田駅こまち駐車場の一部）
- 土地面積：約5,900㎡
- 延床面積：約3,500㎡
- 構造規模：RC造+S造+木造、3階建
- 用途：体育館（バスケットコート2面）
子育て支援施設、店舗等
- 設計監理：ジェイアル東日本建築設計事務所
環境デザイン研究所



2 スケジュール

- 2018年夏ごろ 着工
- 2019年冬 完成予定

■本計画の位置づけ



○ノーザンステーションゲート秋田

次の20年の秋田を活性化するため、秋田県、秋田市、JRが中心となり、地域と連携しながら推進する中心市街地を核とするまちづくりの取組の総称

○中心市街地活性化計画

秋田市中心市街地活性化基本計画による市街地活性化の各種取組み

○秋田版CCRC

「生涯活躍のまち」に向けた秋田版の官民連携の取組み。秋田駅周辺では東口と西口が既存施設と一体となり秋田版CCRCを形成していく

○東口プラチナタウン

秋田銀行が中心となり立ち上げた「秋田プラチナタウン研究会」の一環として計画を進めている、秋田駅東口での健康・スポーツのまちづくりで、秋田版CCRCの一部を担っていく

※2015年9月に秋田県・秋田市・JR東日本の3者で「地方創生に向けたコンパクトなまちづくりに関する連携協定」を締結し、これらの計画推進につながりました

（参考）

■JR東日本秋田バスケットボール部ベッカーズについて

1947年創部。バスケットボール界最高峰の全日本総合バスケットボール選手権大会に7年連続9回出場。2004年から地域の子どもたちを対象にクリニックを実施し、参加者は延べ6,300名超。実業団トップクラスを目指し、地域の皆さまに愛されるチームづくりを行っています。



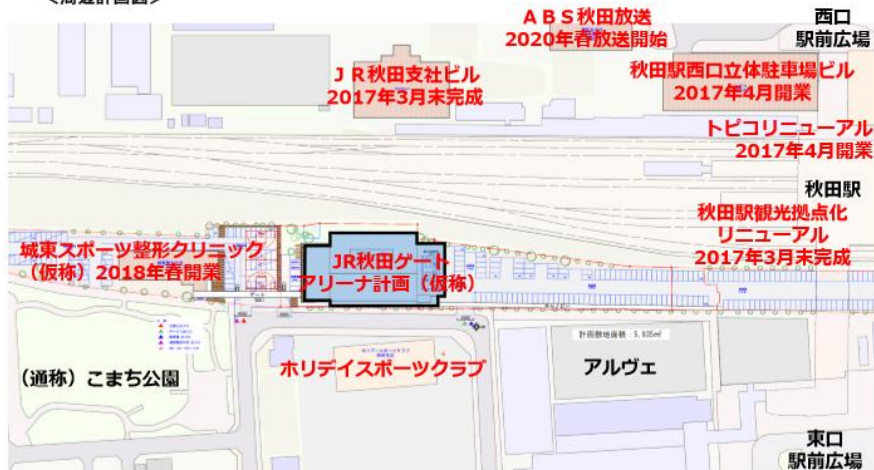
■秋田ノーザンハピネッツについて

秋田初のプロチームとして2009年からBJリーグに参入。2013-2014シーズンから3年連続ファイナルズ進出を果たす。昨年から新たに発足したBリーグに参入。バスケットスクールやチャダンスクール等を実施し、子どもたちのスポーツ育成にも取り組んでいます。



秋田駅前『JR秋田ゲートアリーナ（仮称）』 2019年冬オープン

<周辺計画図>



<イメージ>



体育館イメージ



秋田新幹線こまちからの眺め

<秋田駅東口プラチナタウン 鳥瞰イメージ>



※現在計画中であり、今後変更する場合があります。



大会時の活用イメージ（1面利用）



東側イメージ

※現在計画中であり、今後変更する場合があります。

地域に生きる。

未来のキップを、
すべてのひとに。

TICKET

TO

TOMORROW